

高山本線ブラッシュアップ基本計画(案)について

○概要

高山本線ブラッシュアップ会議のとりまとめに向け、これまでの議論の内容を踏まえ計画（案）を提示。

本資料は計画（案）の骨子を示すとともに、基本方針の実現に向けた取組方針について示す。

高山本線ブラッシュアップ基本計画の骨子

1. 高山本線及び沿線交通の整理

高山本線の概要、活性化事業の経緯、沿線の交通供給状況、利用状況、移動状況、人口動態等を整理

2. 高山本線周辺におけるまちづくりの方針

コンパクトシティとの関係性、上位・関連計画による高山本線に求める方向性等を整理

3. 全国的に地域公共交通が直面する課題

地域公共交通が全国的に直面する課題〔利用者の減少（人口減少・高齢化社会の進行、新しい生活様式の浸透等）や人員等の不足〕や、本状況を踏まえた国の動向を整理。

4. 高山本線及び沿線交通の意義

高山本線及び沿線交通の意義を「移動手段としての意義」「都市構造を形成する骨格としての意義」「市民の生活の質の向上や地域活性化への多面的な意義」の観点から整理。

5. 計画のとりまとめ（基本方針・取組方針・ブラッシュアップ施策・評価指標）

これらを踏まえ、都市の交通軸として高山本線及び沿線交通が目指す基本方針を策定し、実現に向けた取組方針、ブラッシュアップ施策、評価指標を提示。

6. 基本方針の実現に向けた今後の進め方

基本方針の実現に向けた課題を踏まえ、関係者間の役割分担の検討や今後の進め方について整理

基本方針策定に向けた背景

○全国的に地域公共交通が直面している課題

地域公共交通が直面する課題〔利用者の減少（人口減少・高齢化社会の進行、新しい生活様式の浸透等）や人員等の不足〕は高山本線沿線も同様。

→交通事業者の経営努力のみでは課題解決に限界があり、負のスパイラルに陥る恐れがあり、それが地域全体の活力低下を招く懸念あり。



持続可能なまちづくりを目指すには、基幹交通である高山本線、路線バスおよび生活交通であるコミュニティバス等を、現状維持ではなく、真に地域の発展へ貢献し、住民が満足するとともに、住民に選ばれる、新しい時代に相応しいコンパクト×スマートでしなやかな地域公共交通へ再構築するための基本方針とその取組が必要。



○まちづくりの方針（ネクストステージ重点プロジェクト）

■コンパクトシティ政策の深化

人口減少・超高齢化社会に対応するため、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを深化させていくとともに、その成果が市域全体にいきわたるよう、地域生活拠点の充実や公共交通の維持、活性化等に一層取り組む。

■スマートシティの構築

AIやIoT等の新技術の導入や官民の各種データの活用などを推進することで、安全・安心で利便性の高い市民生活を実現する「富山市版スマートシティ」の構築に取り組む。

基本方針(コンパクト×スマートでしなやかな地域公共交通へ再構築するためのプラン)

「いつでも」「誰でも」「気軽に」都心を往来できる公共交通の実現 ～ 高山本線 × MaaS × まちづくり ～

公共交通の既存ストックの最大活用・組み合わせにより、モードの異なる公共交通機関を一つのサービスととらえ、相互にサービス向上を図るとともに、乗換障壁を最大限取り除く（共通運賃、共通ICカードによる精算、接続改善等）ことにより、目的地に応じた最適な公共交通機関の組み合わせが可能な環境を整備し、「誰もが歩いて暮らせる」まちの実現を図る。

《実現に向けた考え方》

- 複数の地域公共交通サービスの組合せ（主に鉄道とバスの協調）
- 「串」の強化によるコンパクト・プラス・ネットワーク型都市構造の深化
- 将来にわたって“いつでも”公共交通で移動できるよう、公共交通を維持・確保・改善
- 地域住民はもとより、来街者の円滑な移動環境の実現による地域公共交通全体の活性化